

令和5年度

すくすくウォッチ(大阪府小学生学力テスト)

柏原市における結果の概要について

柏原市教育委員会

【すくすくウォッチ実施の概要】

1. 目的

子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実に身につける。

2. 実施内容・実施日

《実施内容》

5年生 国語・算数・理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート口

6年生 理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート

《実施日》

令和5年4月19日(水)

3. 各教科・わくわく問題(教科横断型問題)及びアンケートについて

《各教科について》

【国語】・言語能力・読解力の基盤となる、基礎的基本的な言葉等の理解を問う問題

・文章に書かれている意味を正確に捉える力(リーディングスキル)をはかる問題

【算数】・大阪府の課題である、関数・数と計算・図形に関する基礎的な知識技能、数学的な表現や意味理解、日常の事象を数学的に処理する技能を問う問題

・基礎的、基本的な概念や性質を問う問題、数学的な見方・考え方を働かせ、グラフ、表、式、言葉に関連させて考える問題

【理科】・特定の単元に関わらず大阪府の課題である、見通しをもって観察、実験を行うことや、その結果を数学的に表したり、分析したことを記述したりする問題

・生活場面とつなげたり、観察・実験を想定した場面設定の中で、基礎的な知識や科学的な見方、考え方を問う問題

《わくわく問題(教科横断型問題)について》 ※5・6年生ともに同じ問題

・教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題(SDGs、プログラミング的思考)等をテーマにした問題

・文章やグラフ、ホームページの映像を模した場面等の様々な資料を題材とし、問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題

《アンケートについて》

・非認知能力である「未来に向かう力」「目標に向かって頑張る力」「人と関わる力」「気持ちをコントロールする力」と「好奇心」の一人ひとりの状況がわかる様々な問い方に基づく項目

・学級や授業等に関する意識等を問う項目

※調査問題については以下の大阪府教育庁のホームページ内に掲載されています

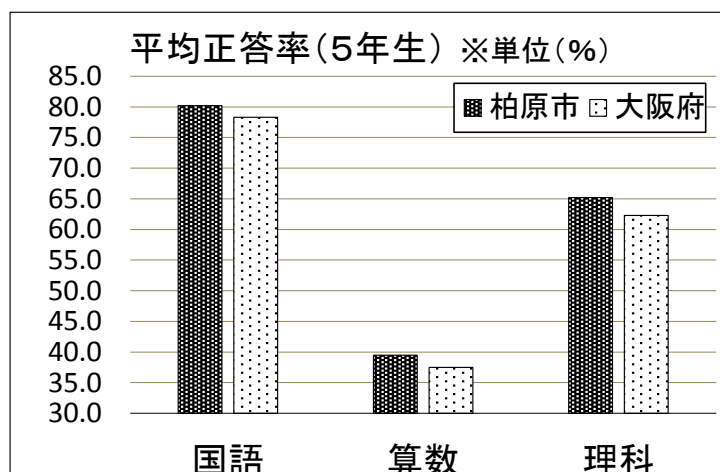
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/sukusuku/index.html>

令和5年度すくすくウォッチ結果

教科 5年生

平均正答率		
	柏原市	大阪府
国語	80.2 >	78.3
算数	39.5 >	37.5
理科	65.2 >	62.3

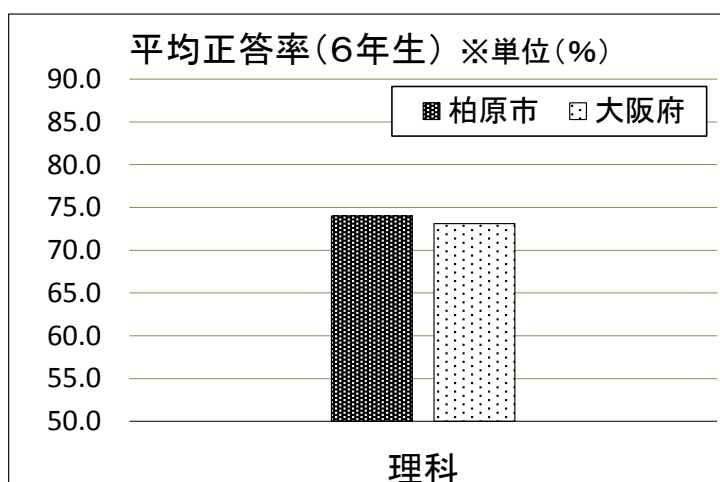
※単位 (%)



教科 6年生

平均正答率		
	柏原市	大阪府
理科	74.0 >	73.1

※単位 (%)

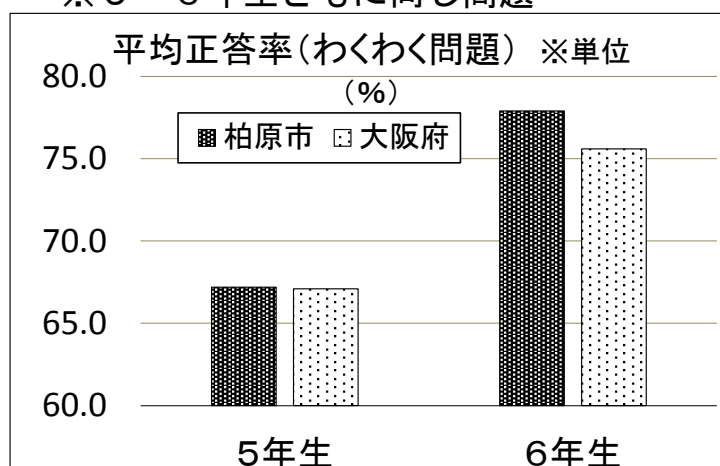


わくわく問題(5, 6年生)

平均正答率		
	柏原市	大阪府
5年生	67.2 >	67.1
6年生	77.9 >	75.6

※単位 (%)

※5・6年生ともに同じ問題



5年生教科は、昨年度に引き続き、国語・算数・理科の全てにおいて大阪府平均を上回った。府の平均は上回るものの、国語や理科と比べると、算数の正答率が低い。

わくわく問題も昨年度と同様に、5年生、6年生ともに大阪府平均を上回る結果となった。5年生と6年生を比較すると、6年生が10%上回っており、日常の活動や経験、学習における教科横断的な学びの積み上げが感じられる結果となった。

令和5年度すくすくウォッチ 各教科別結果概要

【国語(5年)】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			柏原市	大阪府
全体		20	80.2	78.3
学習指導要領 の 領域等	知識及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	82.7	80.8
		(2)情報の扱い方に関する事項	66.2	62.8
		(3)我が国の言語文化に関する事項	65.5	64.4
	思考力、 判断力、 表現力等	話すこと・聞くこと	—	—
		書くこと	85.9	82.4
	読むこと	—	—	
評価の観点	知識・技能	20	80.2	78.3
	思考・ 判断・ 表現	話すこと・聞くこと	—	—
		書くこと	85.9	82.4
		読むこと	—	—
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	
問題形式	選択式	10	79.7	77.5
	短答式	10	80.7	79.1
	記述式	—	—	—

【算数(5年)】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			柏原市	大阪府
全体		7	39.5	37.5
学習指導要領の領域	数と計算	4	41.1	39.5
	図形	2	42.4	39.9
	測定／変化と関係	3	28.0	26.7
	データの活用	1	27.2	24.4
評価の観点	知識・技能	5	50.9	48.0
	思考・判断・表現	2	11.0	11.1
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	1	27.2	24.4
	短答式	4	56.8	53.9
	記述式	2	11.0	11.1

【理科(5年)】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			柏原市	大阪府
全体		10	65.2	62.3
学習指導要領の領域	物質	4	74.2	69.9
	エネルギー	—	—	—
	生命	6	59.1	57.2
	地球	—	—	—
評価の観点	知識・技能	7	61.7	57.6
	思考・判断・表現	3	73.2	73.2
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	7	66.5	63.7
	短答式	2	63.3	55.5
	記述式	2	65.8	64.9

【理科(6年)】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			柏原市	大阪府
全体		10	74.0	73.1
学習指導要領の領域	物質	4	74.4	72.8
	エネルギー	—	—	—
	生命	—	—	—
	地球	6	73.7	73.3
評価の観点	知識・技能	7	75.9	74.4
	思考・判断・表現	3	69.6	69.9
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	7	67.3	66.3
	短答式	3	83.3	81.5
	記述式	2	61.9	62.7

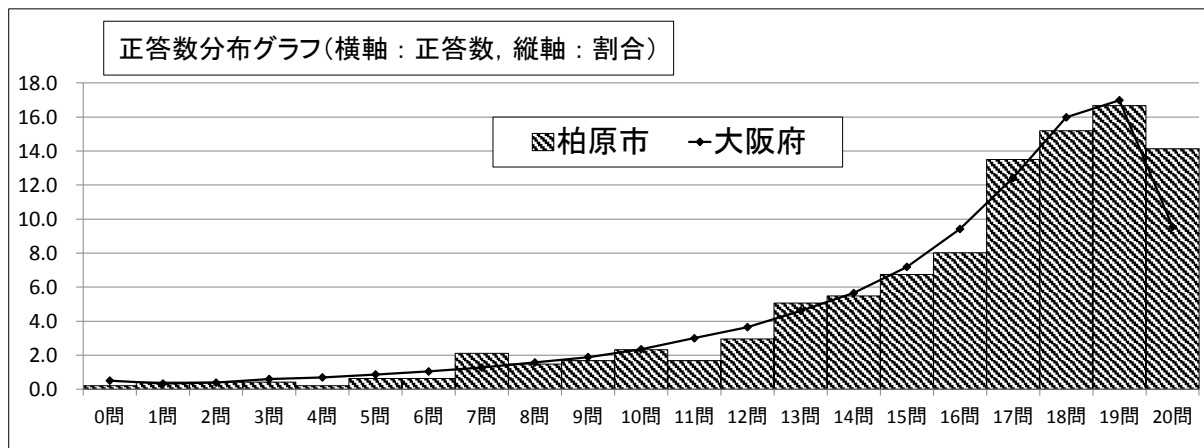
令和5年度すくすくウォッチ わくわく問題 5・6年生 結果概要

分類	区分	対象 問題数 (問)	全体		5年生		6年生	
			平均正答率(%)		平均正答率(%)		平均正答率(%)	
			柏原市	大阪府	柏原市	大阪府	柏原市	大阪府
	全体	9	72.9	71.4	67.2	67.1	77.9	75.6
観点	A 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, 正しくとらえる。	3	80.7	80.0	75.5	75.9	85.2	84.0
	B 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに論理的に考える。	4	59.6	56.9	52.8	51.8	65.6	61.9
	C 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに新たな課題を考える。	2	75.8	75.4	69.4	70.6	81.4	80.2
	D 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに自分の考えをまとめ, 伝える。	4	70.2	68.6	63.6	63.9	75.9	73.1
	E 興味・関心のある事がらについて, 意欲的に工夫して相手に伝える。	1	89.1	89.5	85.3	87.3	92.4	91.7
問題を とらえる	文章から読み取る	5	78.2	77.3	72.4	72.7	83.4	81.9
	会話から読み取る	5	75.4	73.9	70.3	70.0	79.9	77.7
	図や表から読み取る	7	68.6	66.8	62.5	62.1	74.0	71.4
伝える	資料の情報を整理して伝える	5	67.0	64.4	61.3	60.1	72.0	68.5
	自身で考えたことを伝える	3	79.4	78.7	73.5	74.2	84.6	83.1
	理由や根拠を明確にして伝える	3	72.3	71.0	65.3	65.5	78.4	76.4
問題 形式	選択	3	78.7	76.4	73.8	72.4	83.1	80.5
	図表	1	89.1	89.5	85.3	87.3	92.4	91.7
	記述	6	70.0	68.8	63.9	64.4	75.4	73.2

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞	
		柏原市	大阪府		
全体		80.2	78.3		
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	82.7		80.8
		(2)情報の扱い方にに関する事項	66.2		62.8
		(3)我が国の言語文化に関する事項	65.5		64.4
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	—		—
		書くこと	85.9		82.4
		読むこと	—		—
評価の観点	知識・技能	80.2	78.3		
	思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	—		—
		書くこと	85.9		82.4
		読むこと	—		—
	主体的に学習に取り組む態度	—	—		
問題形式	選択	79.7	77.5		
	短答	80.7	79.1		
	記述	—	—		

すべての項目区分で大阪府の平均正答率を上回った。領域別にみると、「情報の扱い方にに関する事項」が大阪府平均を上回っているものの、他の領域に比べると低い傾向にある。



17問以上を正答した上位層の割合が大阪府を上回っており、20問全てを正答した割合は大阪府を4ポイント以上上回った。

国語(5年)より課題の見られた問題

問題番号 1

正 答

い速
つも
より
早く
で歩
いたら、

1	柏原市	大阪府
正答率	31.4%	32.8%
無解答率	2.1%	2.4%

読み方は同じだが、漢字が異なる問題である。また、「直せる漢字はすべて漢字を使う」という条件を、正確に読みとれているかという問題である。

㊦

次の文を漢字に直せるものはすべて漢字を使って書き直しましょう。
はやいスピードであるいたら、いつもよりはやくついた。

問題番号 4 (1)・(2)

(1) Hokkaidô ⇒ ()
(Hokkaido)

(2) 兵庫 ⇒ _____

正 答

(1)	ほっかいどう
(2)	Hyôgo / Hyogo

4		柏原市	大阪府
(1)	正答率	67.1%	70.1%
	無解答率	12.0%	9.8%
(2)	正答率	35.7%	40.5%
	無解答率	15.2%	13.9%

ローマ字は3年生で学習している。学習した内容の定着が必要である。

問題番号 10

正 答

昨日
だち
読んで
すだ
すめ
が
お
も
し
ろ
か
っ
た
の
で、

【もとの文】

昨日読んだ本がおもしろかった。だから、友だちにすすめた。

【もとの文】

カーテンを開けた。すると、部屋が明るくなった。

【書き直した文】

カーテンを開けると、部屋が明るくなった。

㊦ 次の例にならない、「もとの文」の二つの文を、意味が変わらないように一つの文に書き直しましょう。

10	柏原市	大阪府
正答率	63.3%	57.9%
無解答率	10.1%	9.9%

「2つの文を意味が変わらないように1つの文にする」という条件作文の出題である。正答率は大阪府を上回っているが、無解答率が府より多い問題である。

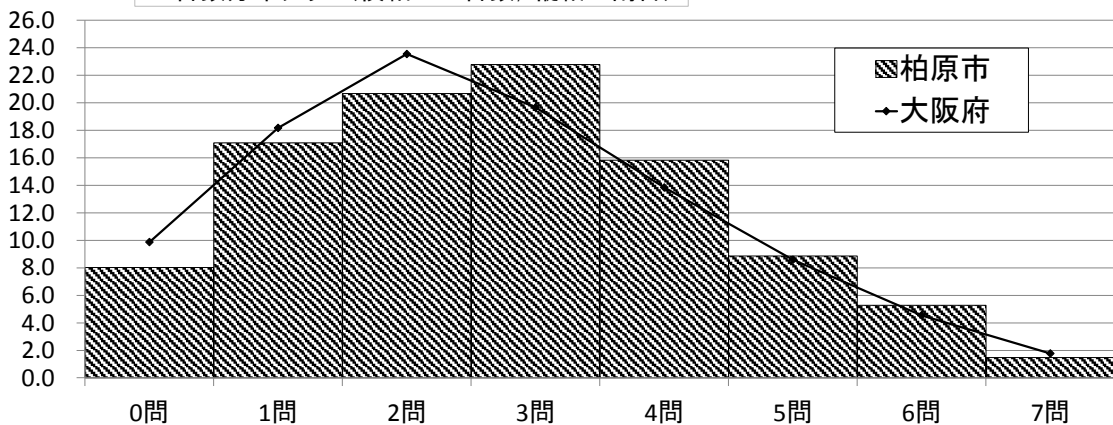
算数(5年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	大阪府	
全体		39.5	37.5	
学習指導要領の領域等	数と計算	41.1	39.5	
	図形	42.4	39.9	
	測定／変化と関係	28.0	26.7	
	データの活用	27.2	24.4	
評価の観点	知識・技能	50.9	48.0	
	思考・判断・表現	11.0	11.1	
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	
問題形式	選択	27.2	24.4	
	短答	56.8	53.9	
	記述	11.0	11.1	

全ての領域で大阪府の平均正答率を上回った。学習指導要領の領域等のうち「データの活用」については大阪府を上回るものの、他の観点に比べて平均正答率が低い傾向となった。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



大阪府の分布に見られる最も多い正答数が2問であったのに対して、3問正答が最も多い。

問題番号 1(3)

たくろうさんは、35日間ある夏休みの初日に、60ページある夏休みの宿題プリントに取り組む計画を立てることにしました。

たくろうさんは、1日に進めたページ数を棒グラフに、残りのページ数を折れ線グラフに表しました。

(3) たくろうさんは、(2)の折れ線グラフで残りのページ数を確認し、今後の計画を考えました。

10日目まで、いい調子で進んでいるな。11日目からは、最初に立てた計画通り、1日2ページずつ宿題プリントを進めていこう。

問い 残りのページをたくろうさんが今考えた計画通りに進めると、夏休みの初日に取り組み始めてからすべて終わるまでに、何日かかることになるでしょう。答えを書きましょう。また、その答えの求め方を言葉や式を使って説明しましょう。

正答例

グラフを見ると、残りは36ページになっている。1日に2ページずつ進めていくと、 $36 \div 2 = 18$ となる。だから、あと18日で宿題を終えることができる。よって、 $10 + 18 = 28$ となり、答えは28日である。

1(3)	柏原市	大阪府
正答率	11.0%	11.6%
無回答率	14.3%	12.9%

問題文やグラフから読み取れる情報をもとに計算し、必要な数量を求めるとともに、その求め方を説明する問題である。資料からの読み取りと、その説明は今後も課題として挙げられる。普段の授業の中でもこうした場の設定が必要であり、こうした経験を積むことで、表現力をつけることができると思う。

問題番号 2(1)・(4)

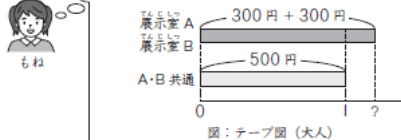
② もねさんとはじめさんは、休みの日に美術館へ行きました。美術館の入口で、2人は入場チケットの代金が書いてある案内板を見ました。

	入場チケットの代金(円)		
	展示室A	展示室B	A・B共通
大人	300	300	500
子ども	180	180	300

展示室A、展示室Bに入るには、子どもはそれぞれ180円かかるよ。A・B共通チケットを買う方が、展示室A、展示室Bそれぞれのチケットを買うより安いんだね。

A・B共通チケットを買うと、展示室A、展示室Bそれぞれのチケットを買うより、子どもは60円、大人は100円安くなるよ。大人の方が得なんだね。

そうなのかな…。もとの代金が違うから、「差」で考えてもわからないんじゃないかな。テープ図を使って、「割合」で考えてみたらどうだろう。



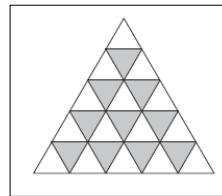
(1) 展示室A、展示室Bそれぞれのチケットの代金の合計は、A・B共通チケットの代金の何倍になりますか。大人と子どもそれぞれの場合について答えを書きましょう。

正答 大人 1.2倍 子ども 1.2倍

2(1)	柏原市	大阪府
正答率	18.9%	21.6%
無回答率	15.4%	13.1%

2種類のチケットの代金の違いを比べる際に割合を使うことを理解し、2つの数量の関係性を倍を使って表す問題である。倍の計算と割合は、3年生と4年生で学習している。この単元に苦手意識を持つ児童は多い。子どもたちが日常生活の中で感じられる場を設定したり、指導方法の工夫や改善をはかったりして、理解を深めていきたい。

(4) 展示室Bの壁に描かれている模様には、台形、平行四辺形、ひし形、長方形、正方形の中で、見つけられない四角形がありました。見つけられない四角形をすべて選びましょう。また、見つけられないわけを、選んだ四角形の特徴を使って説明しましょう。



正答 長方形と正方形

(説明) 長方形と正方形は、どちらも4つの角が直角の図形なので1つの角の大きさは 90° である。しかし、タイルは正三角形なので1つの角の大きさは 60° である。したがって、正三角形のタイルをどのように組み合わせても 90° の角を作ることができないため。

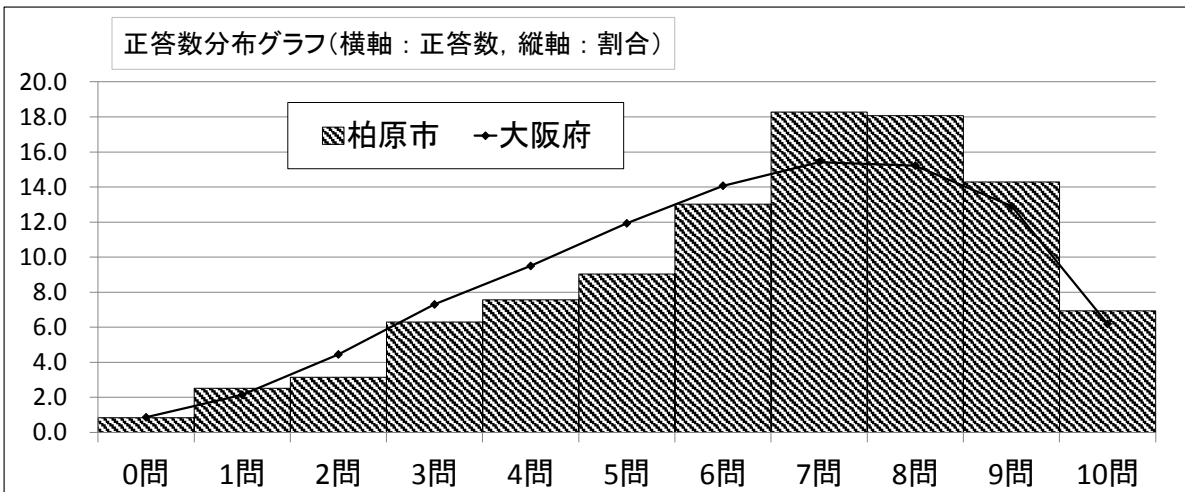
2(4)	柏原市	大阪府
正答率	0.8%	1.2%
無回答率	8.9%	13.9%

正三角形とさまざまな四角形を構成する要素や性質を理解し、正三角形を組み合わせても現れない四角形を考え、その理由を説明する問題である。図形の学習では、実際に図形を扱って操作することに加えて、ICTの活用も効果がある。学習内容に応じて教具を使い分け、児童の理解がより深まるような柔軟な対応が必要である。

問題別調査結果

分類	区分	正答率		<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>
		柏原市	大阪府	
	全体	65.2	62.3	
学習指導要領の領域等	物質	74.2	69.9	
	エネルギー	—	—	
	生命	59.1	57.2	
	地球	—	—	
評価の観点	知識・技能	61.7	57.6	
	思考・判断・表現	73.2	73.2	
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	
問題形式	選択	66.5	63.7	
	短答	63.3	55.5	
	記述	65.8	64.9	

全体・領域別・観点別の全ての項目で大阪府と同等もしくは大阪府を上回っている。



大阪府に比べ7問以上の上位層が占める割合が多く、中位層が少ない。

問題番号 1(4)

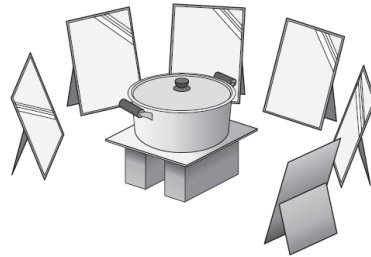
(4) 外に出ると、ソーラークッカーがありました。



ラウラ

ソーラークッカーは、日光を鏡ではね返して集めることで、やかんの水を温めたり、調理をしたりできるそうだよ。自分たちでも作れるみたい。

ラウラさんとゆうきさんは、夏のよく晴れた日に同じ大きさの鏡を6枚使ってソーラークッカーを作り、太陽の光を集めて、カレーの具材と水を入れたなべを温めました。少しずつ温かくなり、60分後、グツグツしだし、90分後、具材が煮えたので、ルーを入れると、カレーができあがりました。



(問い)太陽の光を集めて、カレーの具材と水を入れたなべを温めるとき、あなたなら、カレーの具材がもっと早く煮えるようにするために、ソーラークッカーや鍋にどんな工夫をしますか。工夫とそう考えた理由を書きましょう。

正答例

【工夫】鏡の枚数を増やす。
【理由】光がよりたくさん集まるから。

1(4)	柏原市	大阪府
正答率	55.7%	56.9%
無回答率	13.2%	10.8%

ソーラークッカーの原理(光を当てるとあたたかくなることや、光を集めやすい性質など)から、より早く温める工夫を考えて、書き表す問題である。光の学習の応用であるため、子どもたちの日常生活に関わるような課題を設定して、授業の中で発展学習として取り入れることで思考の幅が広がっていくと考えられる。

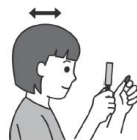
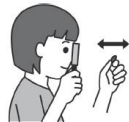
問題番号 2(3)

大阪市内に住んでいるひかりさんは、転校していった友だちのおとさんと、それぞれの住んでいる地域の公園にある桜について、観察シートをタブレットPC端末を使って送り合うことにしました。

【問い】虫めがねを正しく使ってヘチマの種を観察しているのはどれですか。

次の1から3までの中から1つ選びましょう。

- 1 種と頭を動かさず、虫めがねを前後に動かす
2 虫めがねを目に近づけて持ち、種を前後に動かす
3 虫めがねを種に近づけて持ち、頭を前後に動かす



正答 2

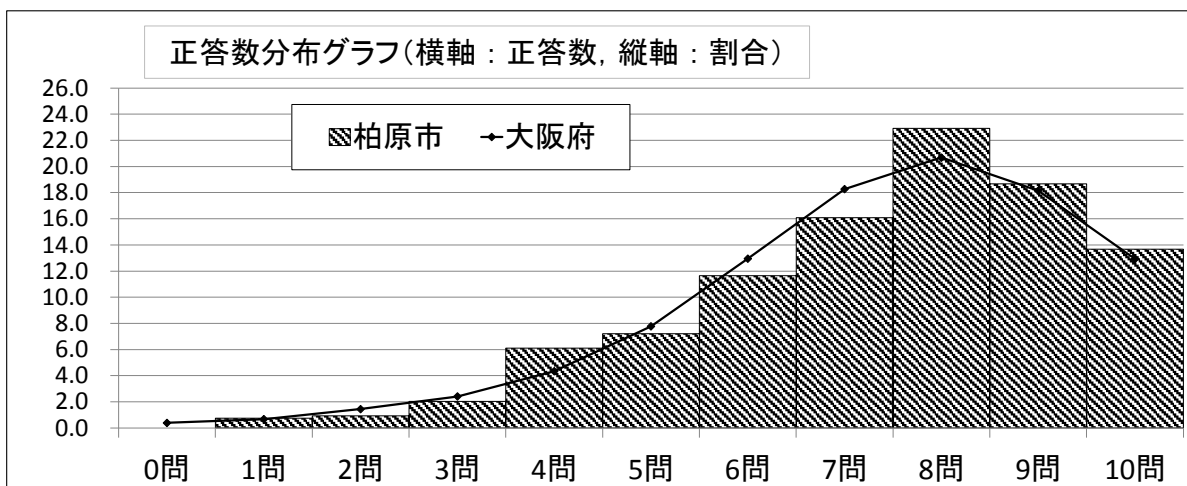
2(3)	柏原市	大阪府
正答率	31.7%	34.1%
無回答率	1.9%	2.2%

虫めがねの正しい使い方を理解しているかどうかを見る問題である。理科の学習では、さまざまな観察道具や実験器具を活用しながら、学習を深めていく。道具や器具を正しく使って、安全に学習をしなければならない。

問題別調査結果

分類	区分	正答率		＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
		柏原市	大阪府	
	全体	74.0	73.1	
学習指導要領の領域等	物質	74.4	72.8	
	エネルギー	—	—	
	生命	—	—	
	地球	73.7	73.3	
評価の観点	知識・技能	75.9	74.4	
	思考・判断・表現	69.6	69.9	
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	
問題形式	選択	67.3	66.3	
	短答	83.3	81.5	
	記述	61.9	62.7	

全体の正答率は大阪府を上回っている。「思考・判断・表現」の観点と「記述」の問題形式で大阪府を下回っており、課題が見られた。



大阪府とほぼ同じ正答数分布の傾向が見られるが、最も多い8問正答の分布の割合が大阪府を約2ポイント上回っている。

問題番号 2(2)

(2) 月の見えた方位がわかった2人は、月の観察カードをかくことにしました。

みさき: 月の観察カードには、何をかけばいいかな?

けんた: 月は動いて見えるから、見えた方位と、時刻をかくといいと思うよ。

みさき: 動きがわかるように、1時間ごとに同じ場所で観察しよう。

みさき: 月の動きを観察するときは、月の見えた方位や高さの目印になるように **ア** をかくといいよ。

問い: みさきさんの発言の **ア** にあてはまる言葉を次の1から4までの中から1つ選びましょう。

1 気温 2 天気 3 まわりの建物 4 日にち

正答	3	2(3)	柏原市	大阪府
		正答率	87.1%	88.3%
		無回答率	1.3%	1.0%

月の観察記録に必要な内容を理解できているかを問う問題である。正答率は高いものの、大阪府の平均を下回っている。また無回答率も大阪府平均を上回っており、基礎的な理解の部分に課題が見られた。

問題番号 2(4)

(4) みさきさんとけんたさんは、観察した月の位置について話しています。

みさき: 午後9時の月は、雲にかくれて見えなかったよ。

けんた: ぼくも午後9時の月は観察できなかったよ。でも、それまでの観察から、だいたい位置はわかると思うよ。

問い: 午後9時の月の位置はどのあたりにあったと考えられますか。みさきさんの観察カードに午後9時の月の位置をかきましょう。

月の観察カード
5月9日 天気 晴れ 20度 (午後6時)

月は東から南に向かって動いていた。午後9時は月が雲にかくれた。

正答例

2(4)	柏原市	大阪府
正答率	84.8%	84.2%
無回答率	13.7%	13.4%

月の動きを観察カードから考察する問題である。正答率は高く、理解はできていると考えられる。一方で無回答率が大阪府平均をわずかに上回っていた。

問題番号 2(6)

(6) みさきさんとけんたさんの学校では、明日5月11日に、校外学習に行く予定です。

5月8日(一昨日) 9:00

5月9日(昨日) 9:00

5月10日(今日) 9:00

みさき: 雲の画像とアメダスを見ると、雲はおよそ **ア** から **イ** へ動き、天気は **ウ** から **エ** へ変わっていくと言えるね。

けんた: じゃあ、明日の朝の大阪の天気は、 **オ** だと予想できるね。

問い: **ア** から **エ** にあてはまる方位を、「東・西・南・北」から選んで書きましょう。(同じ方位を2回以上使ってもかまいません。) また、 **オ** にあてはまる天気を「晴れ・雨」から選び、そう予想する理由も書きましょう。

2(6)	理由	ア	西	エ	東
		イ	東	オ	南
		ウ	西		
		大阪より西の方に雲があり、雨が降っているから。			

2(6)	柏原市	大阪府
正答率	22.7%	23.7%
無回答率	3.0%	3.4%

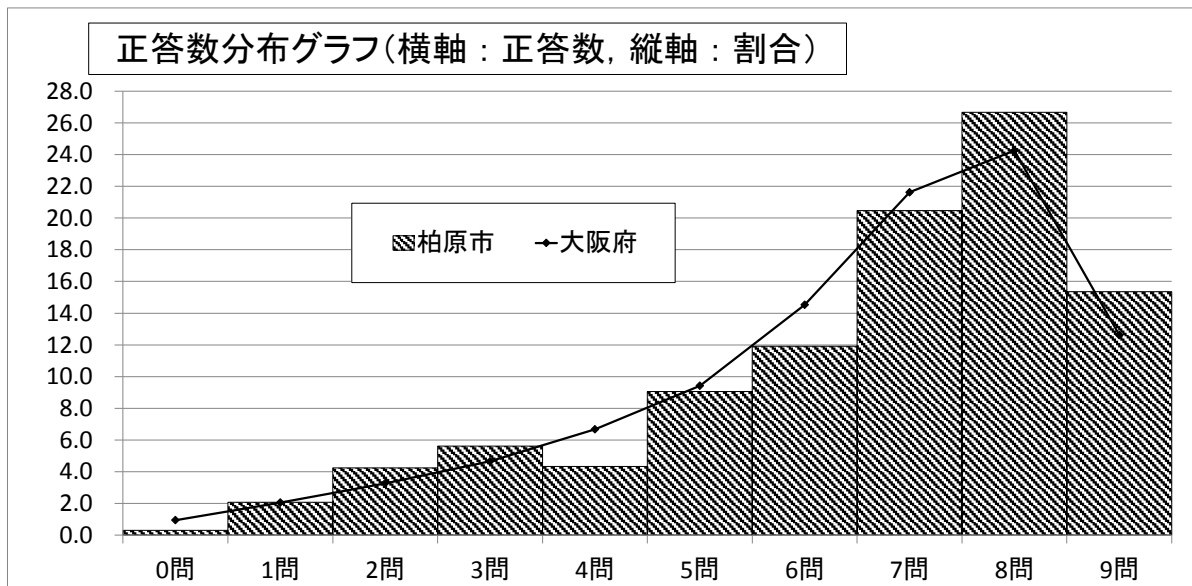
気象衛星の雲画像とアメダスの降水量の画像から、今後の天気の変化について考察する問題である。資料から読み取り、考えを説明する問いで、これまでも市が課題であると捉えている点である。

わくわく(教科横断型)問題について

問題別調査結果

※数値は5, 6年生の平均値になります。

分類	区分	正答率		＜観点別の平均正答率の状況＞
		柏原市	大阪府	
全体		72.9	71.4	<p>→ 柏原市</p> <p>← 大阪府</p> <p>A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。</p> <p>B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。</p> <p>C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事から考える。</p> <p>D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。(プログラミング的思考)</p> <p>E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。</p>
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。	80.7	80.0	
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。	59.6	56.9	
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事から考える。	75.8	75.4	
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。(プログラミング的思考)	70.2	68.6	
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	89.1	89.5	
問題をとらえる	文章から読み取る	78.2	77.3	
	会話から読み取る	75.4	73.9	
	図や表から読み取る	68.6	66.8	
伝える	資料の情報を整理して伝える	67.0	64.4	
	自身で考えたことを伝える	79.4	78.7	
	理由や根拠を明確にして伝える	72.3	71.0	
問題形式	選択	78.7	76.4	
	図表	89.1	89.5	
	記述	70.0	68.8	



全体の正答率は概ね大阪府の平均を上回っている。「E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。」については、大阪府の結果を下回っている。
正答数の分布においては、8問以上正答の割合が大阪府よりも高く、それぞれ約2ポイント上回っている。

わくわく(教科横断型)問題で課題の見られた設問

問題番号 1 (2)

(2) ソースの種類を調べる中で、はるとさんは疑問をもちました。

【ソースについてのアンケート結果】

質問：あなたの家にはどのソースがありますか？
2つ以上答えてもかまいません。

地方ごと100人に質問して「ある」と答えた人数

	ウスターソース	中濃ソース	とんかつ(濃厚)ソース
北海道	41人	64人	31人
東北	33人	75人	22人
関東	43人	70人	27人
中部	62人	46人	29人
近畿	71人	15人	55人
中国	70人	25人	33人
四国	72人	28人	46人
九州・沖縄	75人	25人	48人

(注)「新編国語」日本ソース工業会の資料により作成。

よく使われるソースは、地方によって違いがあります。ただし、地域を色分けしてみました。

【質問】あなたが使っているソースは、よく使われるソースについて、で答えて、おかったことを自主学習ノートにまとめてください。

【あなたの自主学習ノート】

この地方では、
この地方では、

正答例

- ① 「中濃ソース」が一番よく使われている。 ② 「ウスターソース」が一番よく使われている。

1 (2)	柏原市	大阪府
正答率	53.1%	50.4%
無回答率	7.7%	6.9%

2つの資料からどちらのソースがよく使われているかを読み取り、考えを説明する問である。正答率は府を上回っているが、無解答率は府より高い。

問題番号 2 (2)

表1 【さまざまなセンサー】

センサーの種類	センサーを使って読みとる情報	使われているもの
接触センサー	・人や物が触れたこと	・スマートフォンの画面 ・駅の券売機
温度センサー	・温度	・エアコン ・冷蔵庫
光センサー	・光の強さ ・色	・街灯
音センサー	・音の大きさ ・音の高さ	・録音機
加速度センサー	・動き始めたり、止まったこと ・どのくらい傾いているか	・ゲーム機のコントローラー ・歩数計

表2 【タブレットPC端末に使われていると考えられるセンサー】

タブレットPC端末を使ってできること	使われていると考えられるセンサー
画面をタッチすると、写真を撮影したり、アプリを操作したりすることができた。	接触センサー
カメラ機能を使って雲を撮影し、確認するとき、タブレットPC端末の向きを変えたら、写っている画像が回転した。	①
国語の時間に、教科書の音読を録音した。	音センサー
動画を撮影するとき、明るい運動場でも、少し暗い体育館でも、明るさが自動で調整された。	②

正答例

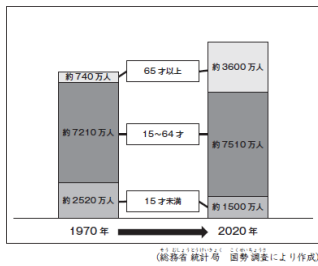
- ① 加速度センサー
② 光センサー

2 (2)	柏原市	大阪府
正答率	75.2%	75.1%
無回答率	5.8%	5.1%

2つの資料から読み取り、適切なセンサーを選び、答える問題である。問題番号1と同様に無回答率が高かった。

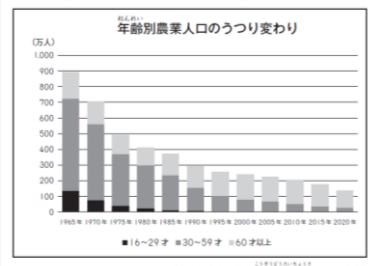
問題番号 2 (3)

資料3 【日本の年齢別人口の変化】



資料4 【ひろとさんの学校の3年生が作った校区の安全マップ】

資料5 【年齢別農業人口のうつり変わり】



資料6 【高齢者が難しいと感じる活動について】

わたしたちの街では、全ての人にやさしい街づくりをめざしています。そこで、高齢者のみなさんには、「最近特に難しいと感じる活動はありますか？」という質問をしたところ、次のような答えをいただきました。

- 重いものを持ち上げたり、運んだりする
- 立ったり、座ったりする
- 階段を使って一階上までのぼる
- 数百メートル歩く
- 夜にぐっすり眠る
- 家や庭を掃除する

また、次の質問では・・・(記事はつづく)

(内閣府 高齢者の健康に関する調査により作成)

【問い】ひろとさんが見つけた資料3から資料6をもとに、あなたなら身の回りや社会の問題を解決するために、どんなことをするロボットを作りたいですか。次の【条件】に合わせて書きましょう。

【条件】○もとにする資料を、資料3から資料6までのの中から1つ以上選びましょう。(選んだ資料のマークを塗りつぶしましょう)
○初めに、もとにした資料から、どのような問題があると考えたか書きましょう。
○次に、その問題を解決するためにどんなことをするロボットを作りたいか具体的に書きましょう。

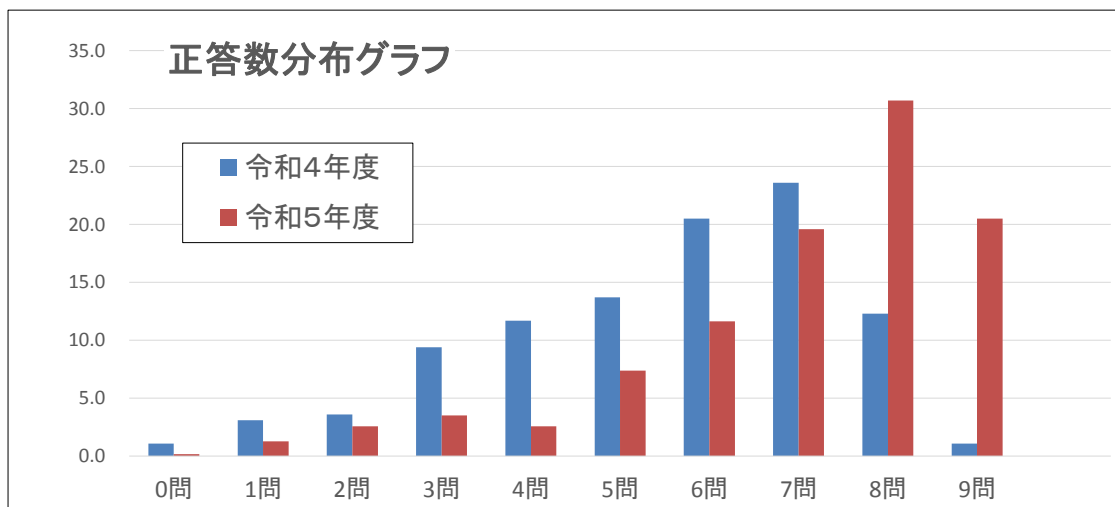
正答例 (選択例) 資料5

理由 農業をする人が減ってきている。農業の仕事の負担を減らすため、種まきや収穫などの農作業をするロボットをつくりたい。

2 (3)	柏原市	大阪府
正答率	25.1%	23.2%
無回答率	8.2%	7.5%

社会の中のさまざまな問題に関心を持ち、自分のこととしてとらえ、何ができるかを考える問題である。わくわく問題では資料からの読み取りが数多く出題され、読み取ったことを伝えたり、表現したりする力が求められている。問題番号3でも、会話と資料を関連付けて分類し、分かりやすく伝える工夫が問われている。正答率は府を上回ったが、無解答率は府より高くなっている。

6年生同一集団の比較



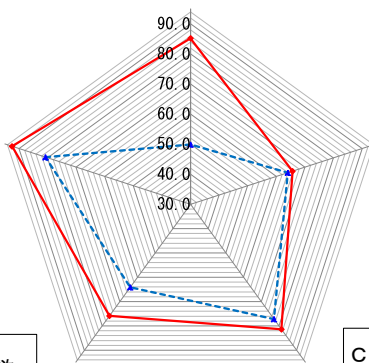
5年生から6年生にかけて、正答率が向上した。特に8問以上正答の数が5年生時よりも大きく増加している。

観点別の平均正答率

- 令和5年度
- 令和4年度

A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。

D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。(プログラミング的思考)



B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。

E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。

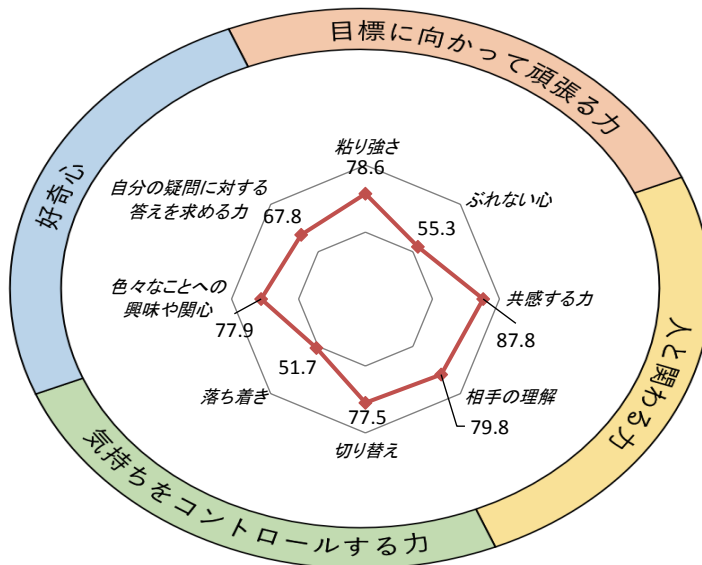
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事からを考える。

どの項目も5年生時よりも正答率が高くなっている。特に「A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。」は向上している。一方で思考力や判断力の指標となる「B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。」と「C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事からを考える。」については5年生時と、ほぼ同程度であった。

令和5年度すくすくウオッチ
【柏原市】児童アンケート結果 「未来に向かう力」と「好奇心」について

大阪府教育庁では、テスト等で測ることのできる「学力」に加え、子どもの将来に大事とされる非認知能力について、「目標に向かって頑張る力」、「人と関わる力」、「気持ちをコントロールする力」の3つを「未来に向かう力」として定義し、その状況をたずねるアンケートを実施しています。アンケートには、新たな知識や経験を探求する原動力になる「好奇心」についての項目も含まれており、本市児童の結果については次のとおりでした。

柏原市 5・6年生



※児童一人ひとりの回答から平均を算出し、その平均を項目の合計で除して百分率で換算した値(ポイント=平均÷合計×100)

未来に向かう力と好奇心	チャート上の項目名	設問数	合計	平均	※ポイント	標準偏差
目標に向かって頑張る力	粘り強さ	3	15	11.8	78.6	2.67
	ぶれない心	3	15	8.3	55.3	3.03
人と関わる力	共感する力	3	15	13.2	87.8	2.30
	相手の理解	3	15	12.0	79.8	2.53
気持ちをコントロールする力	切り替え	3	15	11.6	77.5	2.58
	落ち着き	3	15	7.8	51.7	2.72
好奇心	色々なことへの興味や関心	3	15	11.7	77.9	2.93
	自分の疑問に対する答えを求める力	3	15	10.2	67.8	3.02

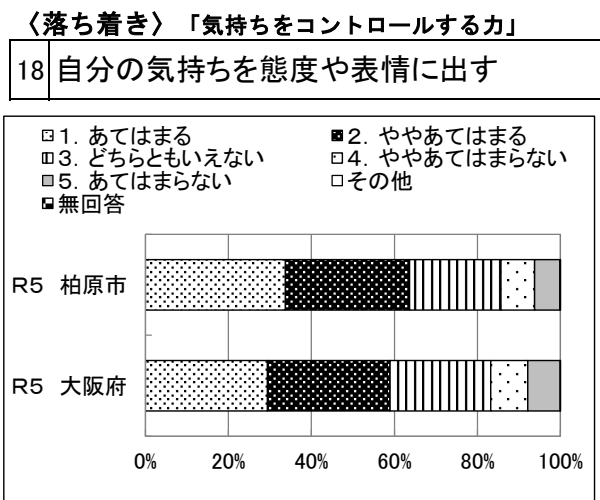
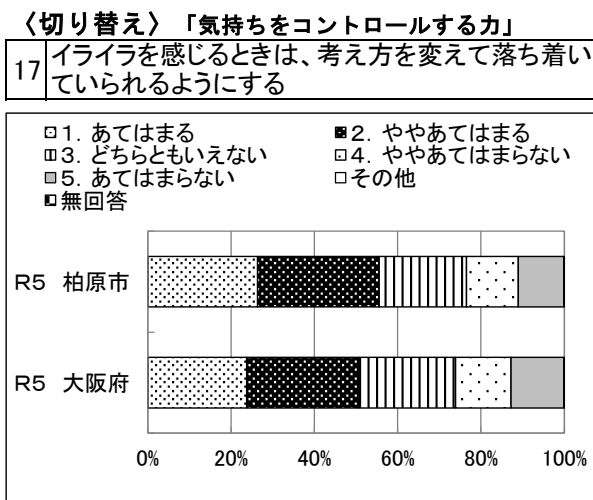
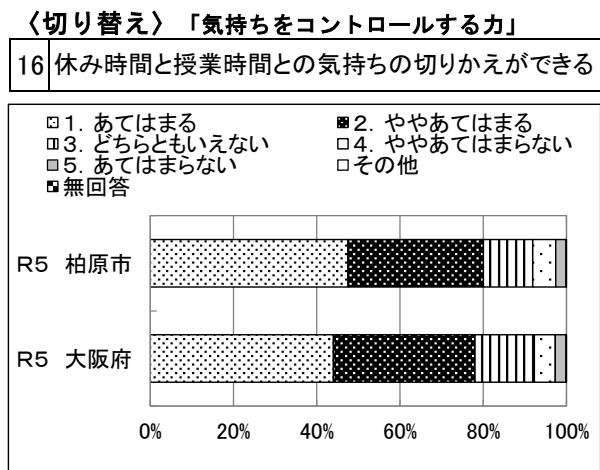
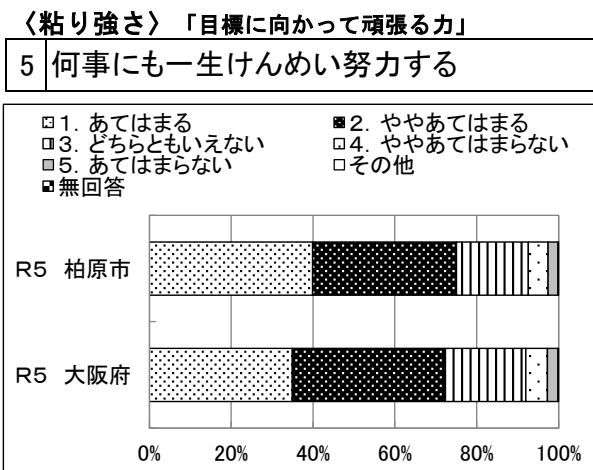
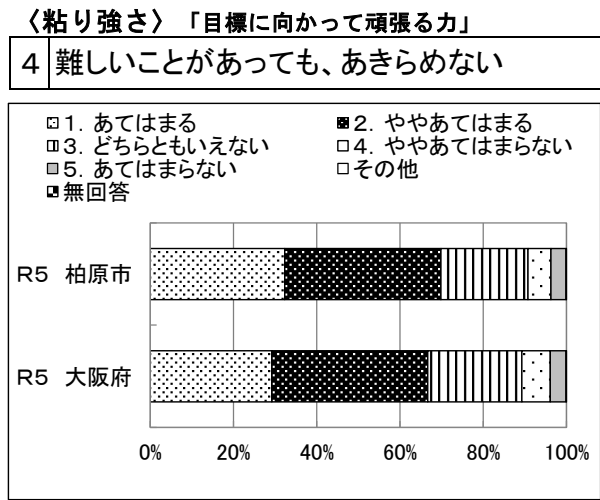
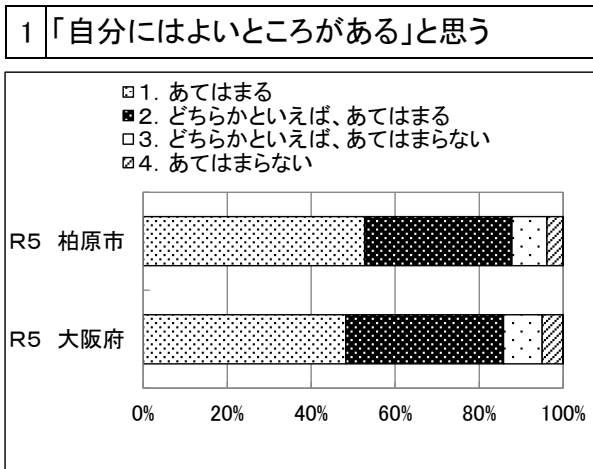
全体の傾向としては、「共感する力」や「相手への理解」という「人と関わる力」が他の力に比べて高い。

一方、「目標に向かって頑張る力」のうちの「ぶれない力」や、「気持ちをコントロールする力」のうちの「落ち着き」が、他に比べて低い傾向にある。

また、「好奇心」のうちの「自分の疑問に対する答えを求める力」が低い傾向にある。

【柏原市】児童アンケート結果 「未来に向かう力」と「好奇心」について

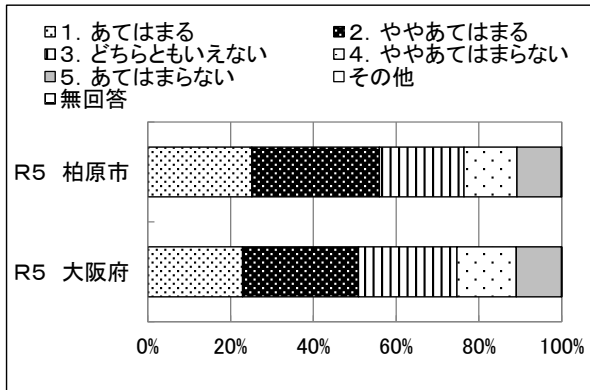
○大阪府に比べ肯定的な回答が高かった項目 (番号は質問の項目番号)



▼大阪府に比べ課題と見られる項目 (番号は質問の項目番号)

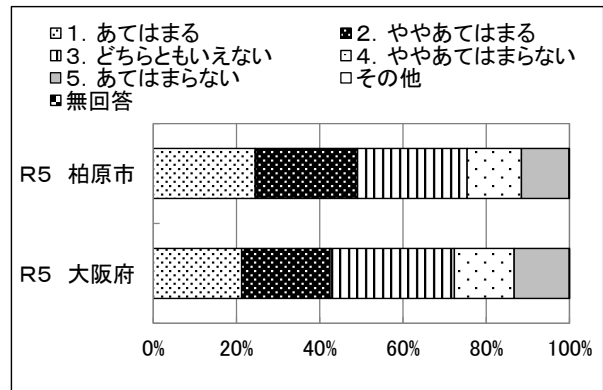
〈ぶれない心〉「目標に向かって頑張る力」

6 終わるまでに何か月もかかる計画に、最後までずっと興味を持ち続けるのは難しい



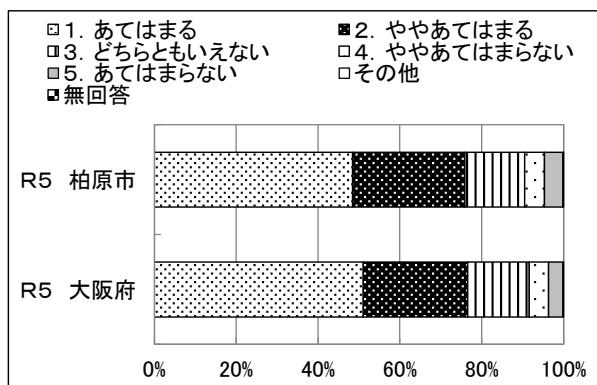
〈ぶれない心〉「目標に向かって頑張る力」

7 新しいアイデアや計画を思いつくと、前のアイデアや計画から関心がなくなる



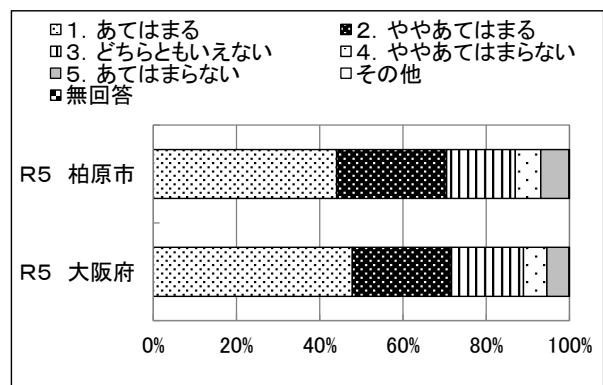
〈色々なことへの興味や関心〉「好奇心」

21 新しいことに挑戦することは好きだ



〈色々なことへの興味や関心〉「好奇心」

22 誰もやったことのない物事にとっても興味がある



児童アンケートから、「自分にはよいところがあると思っている」に、「あてはまる」と回答した割合は、大阪府に比べて6.4ポイント高いことがわかった。その要因として考えられる「家の人にほめられることがある」に、「あてはまる」と回答した割合は、大阪府に比べて5.1ポイント高く、「家の人と一緒に、遊んだり、勉強したり、家の仕事をしたりすることがある」は、6.7ポイント高いことがわかった。

学校生活においては、「あなたの学級は、友だちのよいところを互いに認め合える」や「あなたの学級は、日直や係の仕事を頑張っている」の項目で、「あてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」の肯定的な回答が大阪府に比べて高いことがわかった。

○教育委員会としての今後の取組み

- ・すくすくウォッチの分析を市内で共有し、各校の授業改善に活用する。
- ・ICT機器の導入による情報活用能力の向上と並行して、「思考・判断・表現」を高めるために、「複数の情報を関連付けて読みとる力」をつける具体的な授業実践を交流する場を設定する。
- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、各校の研究主題をもとにした実践交流や発表を中心とした主体的に参加できる研修を企画・運営していく。
- ・市の実態や課題に対応した研修を効果的に行い、「学び続ける教員」の意識を高める。
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする。
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める。
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく。
- ・情報モラルについて学べる研修を実施し、保護者に啓発していく。

○学校における今後の取組み

- ・現在実施している学力調査や単元テストから、児童一人ひとりの学力の変化等を的確に把握し、学力向上に向けた取組みを推進する。
- ・教員全員が各校の課題を起点とした授業改善と指導力向上が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる。
- ・「思考・判断・表現」の観点を伸ばすために必要な実践の充実を図る。
- ・授業においてICTを積極的に活用した授業づくりをすすめる。
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切に、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる。
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、連続した視点での指導を確立させる。

○家庭にお願いすること

- ① 基本的な生活習慣の定着
 - ・決まった時間に寝起きして生活のリズムを意図的につくる。
 - ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す。
 - ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる。
- ② 家庭学習習慣の定着
 - ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める。
 - ・毎日の宿題ができているかを確認する。
 - ・学習習慣に読書を位置付ける。
- ③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り
 - ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める。
 - ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する。